までこそあれ、雨ふりて後は天無用也。大地は草木を出生せんが爲也、草木を出生して後は大地無用也と云ん者の如し。是を世俗の者の譬に、喉過ぬればあつさわすれ、病愈ぬれば醫師をわすると云らん譬に少も不レ違相似たり。所詮修多羅と云も文字也。文字是三世諸佛氣命也と天台釋し給へり。天台は震旦禪宗の祖師の中に入たり。何祖師の言を嫌はん。其上御邊の色心也。凡一切衆生の三世不斷の色心也。何汝本來の面目を捨て不立文字と云耶。是昔し移宅しけるに我妻を忘たる者の如し。眞實の禪法をば何としてか知べき。哀なる禪の法門かなと可レ責。

次に華嚴・法相・三論・倶舍・成實・律宗等の六宗の法門、いかに花をさかせても、申やすく返事すべき方は、能能いはせて後、南都の歸伏狀を唯よみきかすべき也。既に六宗の祖師が歸伏の狀をかきて桓武天皇に奉レ奏。仍彼歸伏狀を山門に納められぬ。其外內裏にも被レ記。諸道の家家にも記し留て今にあり。其より已來、華嚴宗等の六宗の法門、末法の今に至るまで一度も頭をさし出さず。何ぞ唯今事新く捨られたる所の權教無得道の法にをいて眞實の思をなし、如レ此被レ仰候ぞや。不レ得レ心とせむべし。

次に眞言宗の法門は、先眞言三部經は大日如來の說歟、釋迦如來の說歟と尋定て、釋